

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7179246号
(P7179246)

(45)発行日 令和4年11月29日(2022.11.29)

(24)登録日 令和4年11月18日(2022.11.18)

(51)国際特許分類

F I

B 4 2 F 1/02 (2006.01)

B 4 2 F 1/02 B

請求項の数 1 (全7頁)

(21)出願番号	特願2018-236399(P2018-236399)	(73)特許権者	596177559 インターマン株式会社 鹿児島県鹿児島市中央町10番地 キャ ンセビル6F
(22)出願日	平成30年12月18日(2018.12.18)	(72)発明者	上田平 美嗣 鹿児島県鹿児島市中央町10番インター マン株式会社内
(65)公開番号	特開2020-97164(P2020-97164A)	審査官	小池 俊次
(43)公開日	令和2年6月25日(2020.6.25)		
審査請求日	令和3年11月30日(2021.11.30)		

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 ダブルクリップ

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

底板と、この底板の長さ方向両端縁からそれぞれ延設される一対の挟持板とで構成される側面視略二等辺三角形形状の金属製のクリップ本体と、

金属線材を折り曲げてなり、幅方向に略円弧状に膨出する摘み部と、この摘み部の両端部からそれぞれ延出し先端にいくにつれて幅方向に緩やかに拡開するアーム部と、アーム部の先端から幅方向外向きに延出する回動軸部とで構成される一対の開閉レバーとからなり、

前記クリップ本体の夫々の挟持板の先端縁の幅方向両側はそれぞれさらに前方向に延出したのち外側に向かって筒状に丸められ、一対の軸受け部を形成し、

前記軸受け部の幅方向内側には前記開閉レバーの回動軸部を挿入するための一対の差し込み口が設けられており、

前記開閉レバーの前記回動軸部は、前記軸受け部の前記差し込み口に挿入された状態で、前記クリップ本体に対して回動可能となっており、

前記開閉レバーは、前記回動軸部が前記軸受け部の前記差し込み口に挿入された状態で、前記開閉レバー自体の弾性によって幅方向外側に付勢され、前記アーム部は、この付勢力によって前記軸受け部の前記差し込み口の縁に当接しており、

前記軸受け部の前記差し込み口の夫々の縁には、切込みが形成されており、前記アーム部がこの切込みに係合した状態で、前記開閉レバーは前記クリップ本体に対して係止され、前記アーム部がこの切込みに係合した状態で、前記開閉レバーが前記クリップ本体に対

して係止された場合に、前記クリップ本体の底板と、前記開閉レバーの夫々の摘み部の先端が、一直線上に位置することを特徴とするダブルクリップ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、名刺やメモ用紙等のカード状部材を保持するカードスタンドとしても利用できるダブルクリップに関する。

【背景技術】

【0002】

紙葉類を束ねるためにしばしば用いられている挟持具として、ダブルクリップがある。このダブルクリップは、弾性力を有する板材を側面視略二等辺三角形形状に折り曲げてクリップ本体を形成し、これに金属線を折り曲げた開閉レバーを起伏自在に取り付けたものである（例えば、特許文献1参照）。ダブルクリップは、2～100枚を超える紙を簡単に束ねられて、不要になればすぐ外せて元通りとすることができ便利であることから、事務所などでは必須の文具として利用されている。

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】実公平3-44545号公報

【発明の概要】

20

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ダブルクリップは、非常に広範囲に用いられているため、どのオフィスの机の引き出しにも数個以上ねむっていることが多い。一方、名刺やメモ用紙等のカード状部材を保持するカードスタンドも市販されているが、こちらは必ずしも不可欠の文具ではないため、あれば便利だが特に常備されているものではない。

【0005】

そこで、本発明の目的は、カードスタンドとしても利用できるダブルクリップを提供することである。

【課題を解決するための手段】

30

【0006】

上記課題を解決するために、本発明の1つの様相によるダブルクリップは、底板と、この底板の長さ方向両端縁からそれぞれ延設される一対の挟持板とで構成される側面視略二等辺三角形形状の金属製のクリップ本体と、金属線材を折り曲げてなり、幅方向に略円弧状に膨出する摘み部と、この摘み部の両端部からそれぞれ延出し先端にいくにつれて幅方向に緩やかに拡開するアーム部と、アーム部の先端から幅方向外向きに延出する回動軸部とで構成される一対の開閉レバーとからなり、前記クリップ本体の夫々の挟持板の先端縁の幅方向両側はそれぞれさらに前方向に延出したのち外側に向かって筒状に丸められ、一対の軸受け部を形成し、前記軸受け部の幅方向内側には前記開閉レバーの回動軸部を挿入するための一対の差し込み口が設けられており、前記開閉レバーの前記回動軸部は、前記軸受け部の前記差し込み口に挿入された状態で、前記クリップ本体に対して回動可能となっており、前記開閉レバーは、前記回動軸部が前記軸受け部の前記差し込み口に挿入された状態で、前記開閉レバー自体の弾性によって幅方向外側に付勢され、前記アーム部は、この付勢力によって前記軸受け部の前記差し込み口の縁に当接しており、前記軸受け部の前記差し込み口の夫々の縁には、切込みが形成されており、前記アーム部がこの切込みに係合した状態で、前記開閉レバーは前記クリップ本体に対して係止され、前記アーム部がこの切込みに係合した状態で、前記開閉レバーが前記クリップ本体に対して係止された場合に、前記クリップ本体の底板と、前記開閉レバーの夫々の摘み部の先端が、一直線上に位置することを特徴とする。

40

【発明の効果】

50

【 0 0 0 7 】

本発明に係わるダブルクリップは、クリップとしての利用に加えて、名刺などのカードを挟んで掲示しておけるカードスタンドとしても利用できる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 0 8 】

【図 1】図 1 は、本発明の実施例に係るダブルクリップ 1 0 を示す斜視図である。

【図 2】図 2 は、本発明の実施例に係るダブルクリップ 1 0 のクリップ本体 1 2 の軸受け部 1 2 d を、上方向から見た平面図である。

【図 3】図 3 は、本発明の実施例に係るダブルクリップ 1 0 のクリップ本体 1 2 の正面図である。

10

【図 4】図 4 は、本発明の実施例に係るダブルクリップ 1 0 を真横から見た側面図であり、開閉レバー 1 4 が、ダブルクリップ 1 0 をカードホルダーとしての利用するのに適した位置にある状態を示している。

【図 5】図 5 は、本発明の実施例に係るダブルクリップ 1 0 を真横から見た側面図であり、開閉レバー 1 4 が、テコの力でダブルクリップ 1 0 の口を開くのに適した位置にある状態を示している。

【図 6】図 6 は、本発明の実施例 2 に係るダブルクリップ 1 0 を、カードホルダーとして利用している状態を示す斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 0 9 】

20

以下、添付図面を参照しながら、本発明によるダブルクリップの実施例を説明する。図 1 は、ダブルクリップ 1 0 の斜視図である。このダブルクリップ 1 0 は、クリップ本体 1 2 と、一対の開閉レバー 1 4 とからなる。

【 0 0 1 0 】

クリップ本体 1 2 は、金属製の弾性板材を加工したもので、底板 1 2 b と、これの長さ方向両端縁から上方向にそれぞれ延設される一対の挟持板 1 2 c とで構成される側面視略二等辺三角形形状に形成されている。一方、開閉レバー 1 4 は、剛性の高い金属線材を折り曲げてなるもので、幅方向に略円弧状に膨出する摘み部 1 4 a、該摘み部の両端部からそれぞれ延出し先端にいくにつれて幅方向に緩やかに拡開するアーム部 1 4 b、さらにアーム部 1 4 b の先端から幅方向外向きに延出する回動軸部 1 4 c とで構成されている。

30

【 0 0 1 1 】

また、クリップ本体 1 2 の夫々の挟持板 1 2 c の先端縁の幅方向両側はそれぞれさらに前方向（底板 1 2 b が配された側とは反対の方向）に延出したのち外側（お互いが離れる方向）に向かって筒状に丸められ、一対の軸受け部 1 2 d を形成している。この軸受け部 1 2 d の夫々は、開閉レバー 1 4 をクリップ本体 1 2 に枢支するための軸受け部としての役割を担っており、幅方向内側にはこの開閉レバー 1 4 の回動軸部 1 4 c を挿入するための一対の差し込み口 1 2 e が設けられている。更に、これら一対の差し込み口 1 2 e の間には、開閉レバー 1 4 の回動軸部 1 4 c の先端を軸受け部 1 2 d 内に導くための案内部 1 2 f が形成されている。

【 0 0 1 2 】

40

開閉レバー 1 4 は、クリップ本体 1 2 の回動軸部 1 4 c が差し込み口 1 2 e に挿入されている状態で、開閉レバー 1 4 の弾性によって、幅方向外側に付勢されている。従って、差し込み口 1 2 e の内側の形状によって、クリップ本体 1 2 に対する安定位置が決まることになる。この差し込み口 1 2 e の内側の形状が、本発明の重要な構成要件となっているので、以下差し込み口 1 2 e の内側の形状を詳細に説明する。

【 0 0 1 3 】

図 2 は、クリップ本体 1 2 の軸受け部 1 2 d を、上方向から見た平面図（すなわち、底板 1 2 b とは反対側から見た図）である。図から明らかな通り、差し込み口 1 2 e は、中央に向かって（幅方向外側に）斜めに入り込んでいる。この形状によって、幅方向の外側に付勢されている開閉レバー 1 4 は、真上に立っている角度、すなわち図 1 のような状態

50

で安定することがわかる。この状態で、開閉レバー 1 4 のアーム部 1 4 b の先端は、差し込み口 1 2 e の最も奥側に付勢されている。

【 0 0 1 4 】

図 3 は、クリップ本体 1 2 の正面図である。図で、点線は、従来の軸受け部の形状を示している。この点線の形状では、頂点 P の上側と下側の双方で、幅方向外側に入り込んでいる。従って、幅方向の外側に付勢されている開閉レバー 1 4 は、頂点 P の上側にある時、頂点 P の上側方向に回転するように付勢される。従って、上記の通り、開閉レバー 1 4 は、真上に立っている角度、すなわち図 1 のような状態で安定することがわかる。また、開閉レバー 1 4 は、頂点 P の下側にある時、頂点 P の下側方向に回転するように付勢される。これにより、開閉レバー 1 4 は、反対方向（下方向）に倒れて、挟持板 1 2 c に当接している状態（図 5 参照）でも、安定することがわかる。

10

【 0 0 1 5 】

本発明では、この頂点 P の下側に切込み C を設けて、下向きの途中の角度でも安定するようにした。夫々の開閉レバー 1 4 のアーム部 1 4 b の先端が、この切込み C に係合した状態では、図 4 に示したように、クリップ本体の底板 1 2 b と、開閉レバー 1 4 の夫々の摘み部 1 4 a の先端は、一直線上に位置する。従って、図 6 に示したように、名刺やメモ用紙などのカード N を挟んだ状態で、カードホルダーとして机の上などに安定して置くことができる。

【 0 0 1 6 】

従って、上記した本発明によるダブルクリップの実施例においては、開閉レバー 1 4 は、クリップ本体 1 2 に対して次の 3 種類の角度で安定する。まず、紙葉類を束ねて収納している状態では、一对の開閉レバー 1 4 は、図 1（紙葉類は示されていない）に示したように上向きに合わさった位置にある。また、紙を挟むために、ダブルクリップ 1 0 の口を開く際には、図 5 に示したようにアーム部 1 4 b が挟持板 1 2 c に当接している位置におく。更に、ダブルクリップ 1 0 をカードホルダーとして用いる場合には、図 6 に示したように、開閉レバー 1 4 のアーム部 1 4 b を、中間位置に固定する。

20

【産業上の利用可能性】

【 0 0 1 7 】

以上のように、本発明によるダブルクリップによれば、クリップとしての利用に加えて、カードスタンドとしても利用できる。

30

【符号の説明】

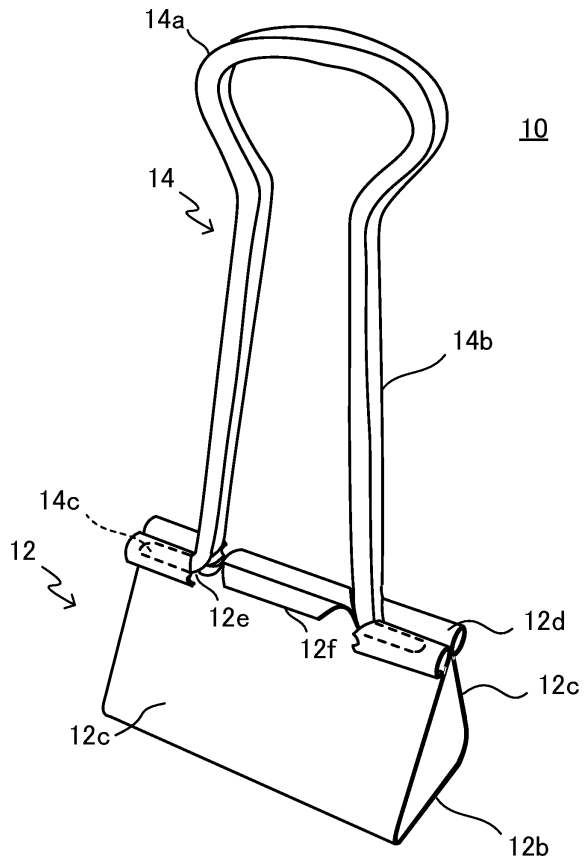
【 0 0 1 8 】

- 1 0 ダブルクリップ
- 1 2 クリップ本体
- 1 2 b 底板
- 1 2 c 挟持板
- 1 2 d 軸受け部
- 1 2 e 差し込み口
- 1 2 f 案内部
- 1 4 開閉レバー
- 1 4 a 摘み部
- 1 4 b アーム部
- 1 4 c 回転軸部
- C 切込み
- P 頂点
- N カード

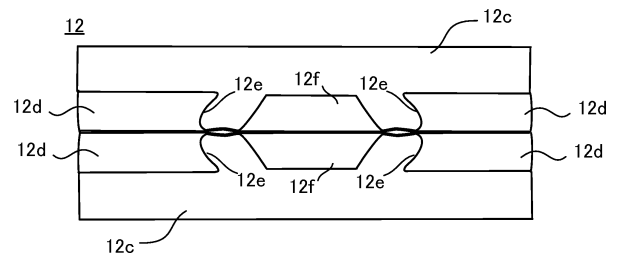
40

【図面】

【図 1】



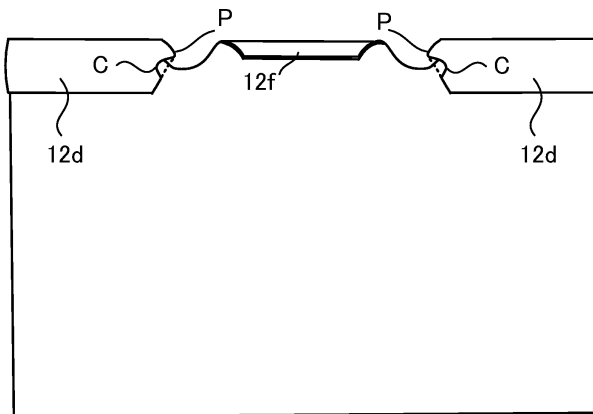
【図 2】



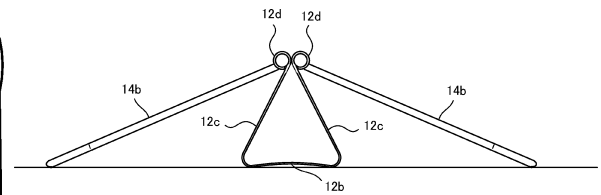
10

20

【図 3】



【図 4】

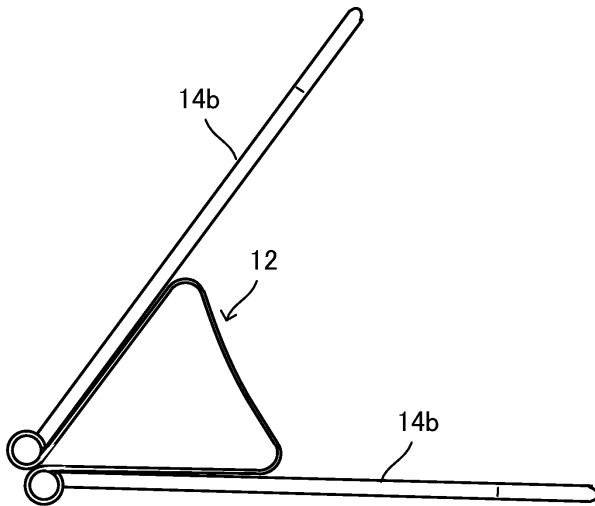


30

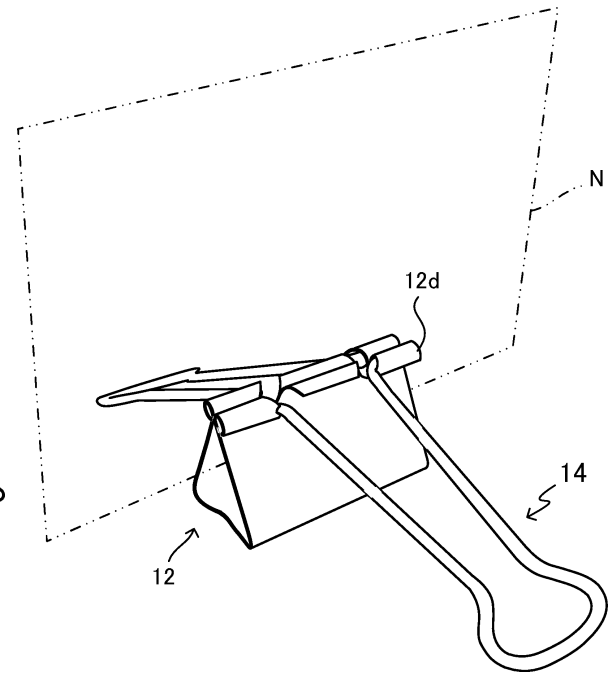
40

50

【図 5】



【図 6】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 登録実用新案第 3 1 4 9 8 3 0 (J P , U)
特開 2 0 1 3 - 0 1 8 2 5 6 (J P , A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
- | | |
|---------|-----------|
| B 4 2 F | 1 / 0 2 |
| B 4 2 F | 1 7 / 0 0 |
| G 0 9 F | 1 / 1 0 |